山形県作業療法士会 広報誌

ほっOT!

Vol.5
2017

山形県作業療法士会の取り組み

日本作業療法士協会設立50周年･山形県作業療法士会設立30周年

記念講演･記念式典･祝賀会報告

認知症フォーラム

山形県内で働く作業療法士を紹介します

わたしの町の作業療法士

私にとって作業療法とは…

Occupational Therapy YAMAGATA

山形県作業療法士会の取り組み その1

認知症施策～認知症初期集中支援チームに関する県内の取り組み～

平成27年国勢調査では県内の高齢者（65歳以上）の人数は33万人を超えており、高齢化率は30%以上と、総務省人口統計では全国7位の高齢県となっております。また、高齢者の人口構成に当てはめると認知症と認知症予備軍を合わせた高齢者数は10万人を超え、高齢者のおよそ3人に1人であると推計されます。

今後も認知症高齢者が急増すると予測される中、国は認知症施策推進計画（オレンジプラン）の中で、平成29年度までに全市町村に認知症初期集中支援チームを設置することを計画しております。今後県内で作業療法士がチームの一員として活動していくために今回は認知症初期集中支援チームに関する県内の動向と具体的な事例について研修会を行いました。

研修会の様子

山形県認知症施策推進協議会委員 OT 椿野幸子氏

山形市南部認知症初期集中支援チーム OT 枝川恭子氏

東京都世田谷区認知症初期集中支援チーム OT 村島久美子氏

（平成28年12月18日　山形県立保健医療大学にて『認知症初期集中支援チームに関する県内における動向と事例検討』）

認知症初期集中支援チームとは、複数の専門職からなるチームが家族の訴え等により認知症の人（疑いも含む）及びその家族を訪問し、アセスメント・家族支援など初期の支援を包括的・集中的に行い自立支援のサポートを行う活動となっております。私たち作業療法士は認知症初期集中支援チームの一員として生活上の課題抽出・サポートの提案・自助具や福祉用具の提案・住環境の評価と改善のアドバイスを担っています。認知症初期集中支援チームでは人材育成を目的とした研修会を継続的に開催しております。山形県作業療法士会のホームページにも概要は載っておりますのでご覧ください。

山形県作業療法士会の取り組み その2

山形県特別支援教育の推進に向けて、他職種（スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー・理学療法士・言語聴覚士など）と協力し作業療法士（OT）の専門的な支援が必要とされています。（平成28年8月山形県教育委員会、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒への支援状況調査報告書より）

・授業についていけない
・お友だちとの関係がうまく作れない
・不注意、集中力が続かない
・生活習慣がなかなか身につかない
・こだわりが強い
・何もする気がない　etc…

このような悩みをかかえながら通常学級に在籍している特別な支援を必要とする児童に対してOTが関わっています。

これまでの取り組み

①第24回山形県作業療法学会　2016年5月12日

県民公開「シンポジウム自閉症スペクトラムへの支援」

今回は、県民講座として5名のシンポジストをお招きし、自閉症スペクトラムやその他の発達に不安を感じているお子さんの支援の実際についてお話を頂きました。シンポジストの1人OTの小川氏からは、そのような状況にあるお子さんに対するOTとしてのサポートや地域・学校、多職種との連携についてお話頂きました。悩みを抱えていらっしゃる親御さんや教育、保育現場に携わる方など多数の参加を頂きました。

②山形県内でのOT研修会　2016年10月

「教育・保育現場との連携の実際」と
「発達が気になる子どもたちの行動上の課題について」

講師：酒 井 康 年 氏

前半はOTを対象とした内容、その後一般の方向けの研修会ということで、学童保育の関係者、学校教諭、支援員（指導員）などの職種にも参加頂きました。参加者の約1／3がOTでしたが、発達領域以外の参加も多く、テーマに対する関心の高さが伺えました。アンケートの結果では、大変よかったという意見が大半で満足度が高かったです。

日本作業療法士協会設立50周年・山形県作業療法士会設立30周年

記念講演・記念式典・祝賀会報告

記念事業担当理事　佐藤寿晃

記念講演

一般社団法人山形県作業療法士会は、本年で設立30周年を迎えるにあたり、2016年11月12日（土）に、山形国際ホテルにて記念講演・記念式典および祝賀会を開催致しました。当日は、お忙しい中、関係官庁、諸団体のご来賓及び山形県作業療法士会会員など約300名が参加し開催されました。

記念講演では、藤原茂氏（社会福祉法人夢のみずうみ村理事長）より「作業療法の専門性・可能性について～よりよい人生を送るために作業療法（士）を活かそう～」の講演があり、作業療法の魅力についてお話を頂きました。

記念式典では、吉村美栄子山形県知事（代読：細谷知行副知事）をはじめ、佐藤孝弘山形市長、徳永正靱山形県医師会長のご来賓の皆様から心温まるご祝辞を頂戴しました。その後、表彰式に移り、長年に亘り、本会の事業および作業療法への発展に貢献された松峯愛氏、鈴木由美氏に特別表彰を授与しました。また、感謝状は7団体に授与しました。

その後、14時50分より、山形県作業療法士会設立30周年祝賀会が執り行われました。最初、松木信会長から本会の歴史について動画を用いて説明と挨拶があり、その後、川崎正則氏（公立大学法人山形県立保健医療大学事務局長）による乾杯の発声で和やかに祝賀会が始まりました。祝賀会では、来賓である髙橋俊章氏（一般社団法人山形県理学療法士会会長）、田口充氏（一般社団法人山形県言語聴覚士会会長）からお祝いのお言葉を頂き、ご来賓の皆様方と交流し、盛況のうちに幕は閉じました。

これからも来賓に来られた多数の団体の皆さま方と共に、山形県民の健康増進に努めていく所存です。今後もよろしくお願いいたします。

一般社団法人山形県作業療法士会　会員一同

表彰式

祝賀会

認知症フォーラム

日本作業療法士協会設立50周年・山形県作業療法士会設立30周年記念事業として、認知症のことや認知症カフェを知ってもらうこと、専門職団体と認知症のある方や一般の方とが交流することを目的に、県内4会場で認知症フォーラムを開催しました。

認知症カフェはご本人やご家族、地域の方々、専門職等が集い、お茶やコーヒーを飲みながら、相談や勉強するなど相互に交流し、いろいろな活動を通してみんなで支えあう場所です。今回の認知症フォーラムでは作業療法士をはじめ、理学療法士や言語聴覚士、介護支援専門員などの専門職の方々にご参加いただきました。

こんなことをやりました

○カフェ・相談・体験コーナー

お茶を飲みながら互いに話をしたり、専門職へ相談したりする場面がみられました。

○認知症ミニドラマ「二本の傘」上映（制作：日本作業療法士協会）

「とてもわかりやすかった」、「反省させられる場面が多くあった」など好評でした。

○専門職団体からの一言アドバイス

認知症の方へどんな支援を行っているのかを、各専門団体の方からご紹介いただきました。

○認知症講座

作業療法士　認知症の方への対応や認知症予防の工夫
理学療法士　心と体が元気になる体操・運動講座
言語聴覚士　口腔・嚥下体操　など

4コマ漫画のパンフレットや認知症カフェ紹介コーナーも好評でした!

参加者からの声

- 認知症のことやリハビリの仕事のことがよくわかりました。
- 様々な分野からの話が聞くことができてとても参考になりました。
- 認知症の人、家族だけでなくもっと地域にも広めてもらいたい。
- 近くの認知症カフェに行ってみようと思います。
- 家でも体操をしたいと思います。

認知症フォーラムは毎年継続して行っていく予定です。

認知症があっても安心して生活できる地域を目指して、お茶を飲みながら一緒に勉強したり、愚痴をこぼしたり、相談したりしませんか。皆様お誘いあわせの上ご参加下さい。

平成28年9月22日（木・祝）
山形会場　さくらんぼカフェ

平成28年10月1日（土）
新庄会場　新庄駅ゆめりあ

平成28年10月15日（土）
酒田会場　山容病院　グリーンカフェ

平成28年10月16日（日）
南陽会場　えくぼプラザ

一般社団法人山形県作業療法士会年表

年　度	あ　ゆ　み
1986	山形県作業療法士会設立(11名) 初代会長　清 和 由 雅　就任
1988	第1回新人発表会開催(鶴岡市)
1989	第2代会長　石 山 浩 之　就任
1990	第1回冬期セミナー(蔵王)
1991	第2回冬期セミナー(蔵王) 第1回夏期セミナー(Asahi自然観)
1992	第1回山形県作業療法学会開催(山形市)
1993	第3代会長　笹 原　　寛　就任
1994	第5回東北作業療法学会開催(山形大学医学部講堂)
1995	山形県作業療法士会10周年　記念事業・祝賀会(寒河江市)
1997	ねんりんピック参加(山形市)
1998	会員数100名突破
1999	第4代会長　長 岡 進 一　就任
2003	山形県作業療法士会誌創刊
2004	新潟県中越地震募金活動
2005	県士会シンボルマークのデザイン化 やまがたウェルフェアへの出展
2007	日本作業療法士協会全国研修会開催
2009	一般社団法人山形県作業療法士会設立、記念祝賀会開催 初代会長　松 木　　信　就任
2011	会員数500名突破 東日本大震災災害支援
2013	認知症出前講座普及委員会設置 認知症ケアパス作成委員会設置
2016	山形県作業療法士会30周年　記念事業・祝賀会(山形市)

第3回 わたしの町の作業療法士

山形県内で働く作業療法士を紹介します

File.04

加藤 拓磨 さん
病院勤務(鶴岡市)　6年目

作業療法士を目指したきっかけはなんですか?

高校生の時に、作業療法体験に参加したことをきっかけに、作業療法士の素晴しさを知りました。先輩・後輩方と仕事しながら、作業療法士の良さや魅力を日々実感しています。

今はどんなお仕事をしていますか?

回復期リハビリテーション病棟という所で働いています。脳卒中や骨折等、様々な疾患を患った方に対して、その人に合った治療や作業活動を提供しています。機能回復の治療に加えて、精神面のサポートをしながら、患者さんが生き生きとした生活が送れるように関わっています。

これからの目標を聞かせてください!

作業療法士としての腕を磨く事はもちろんですが、地域で作業療法士が必要とされるように、病院内に留まらず病院外での活動も積極的に行っていきたいです。

File.05

水野 真悠子 さん
介護老人保健施設勤務（三川町）　4年目

作業療法士を目指したきっかけはなんですか?

中学3年生の時に父親が脳出血で倒れ、見舞いに行った際『リハビリ』という職種があることを知りました。それからリハビリについて調べ、作業療法士という職業に興味を持ったことがきっかけです。

今はどんなお仕事をしていますか?

主な担当は通所リハビリですが、入所リハビリにも携わっています。在宅・施設生活共に、各々の利用者様にはどのような生活を送って頂けると良いだろうか、有意義に過ごす為に私には何が出来るのか考えながらリハビリを実施しています。

やりがいは?

一番は「水野さん」と名前を呼んで頂き、利用者様の笑顔を見ることが出来た時です。

これからの目標を聞かせて下さい!

利用者様の全てを把握する事は難しいですが、何を望んでいるのか、何に困っているのかしっかりと把握し、利用者様の今後の生活に活かせるリハビリを考えられる作業療法士になりたいと思います。当たり前な事かもしれませんが、初心を忘れず頑張りたいと思います。

毎年夏に作業療法体験見学会を開催しています。興味のある方はぜひ参加してください。

ほっOT! 2017年3月号 Vol.5 MARCH 2017
発行日／2017年3月　発行責任者／一般社団法人 山形県作業療法士会　松木 信
編集・発行／一般社団法人 山形県作業療法士会　事務局／山形済生病院内　山形市沖町79-1　Url. http://yamagata-ot.jp

現場で活躍する作業療法士に聞きました!

私にとって作業療法とは…

ほっOT!

広報誌「ほっOT!」について
～作業療法の由来と特徴?～（“ほっと”と呼んでください）

旧来より、人間は様々な「作業」をすることでその営みを発展させてきました。18世紀になるとそれを治療的に利用するようになり、その取り組みから作業療法「occupational therapy」が生まれています。

現代では作業療法に求められることも多様化しその治療は様々になってきていますが、「作業」本来の持つ効果を生かしていることには代わりありません。例えば、手工芸や木工のような生産的な作業や、日常生活上の様々な動作、音楽やゲーム、遊びのような活動も治療の手段になります。好きな作業や遊びなどを通して、気分が落ち着いたりさわやかな気持ちになったことはありませんか?「作業」にはそんな不思議な力があるのです。そんな作業療法が抱く、温かさ、ほっとするところを感じていただけたらとの想いから、本誌名を『ほっOT!』と名付けました。「ほっOT!」今後ともよろしくお願いいたします。

編集後記

山形県作業療法士会は記念すべき30周年を迎えることとなった今回、お陰様で広報誌ほっOTも5周年を迎えました。発行にあたり、ご尽力頂きました皆さんありがとうございました。少ないメンバーでの慣れない作業に大変さはありますが、今後も作業療法に親しみを持って頂けるように素敵な活動や取り組みを紙面を通して伝えていければと思っています。

Occupational Therapy
一般社団法人 山形県作業療法士会
http://yamagata-ot.jp
「ほっ OT!」のバックナンバーもあります!
『作業療法士は皆さんの身近な病院や施設で働いているリハビリの専門家です』

表紙モデル／鈴木雅之さん（作業療法士）
写真は訪問リハビリにて、趣味活動の庭木の手入れ話の中からその人らしさを探っている1コマです。